

# 希望の光 闘病者らに



柔らかいタッチで描いた作品が並ぶ院内。いずれも熱田区波寄町で

## 眼病克服の美術家5人作品展

目の病気を治療で克服した美術家五人による展示「光もとめて」が、知り合つきっかけとなった眼科の「名古屋アイクリニック」(熱田区波寄町)で開かれている。闘病する人らに希望を届けたいとの思いから企画された。

(鈴鹿雄大)

熱田の眼科

参加するのは、三輪光明さん(セ七)＝名東区、杉本準一郎さん(セ七)＝知多市、牧野克己さん(セ七)＝稲沢市、杉浦富貴子さん(九七)＝春日井市、水谷寿美子さん(セ七)＝同の美術家。油絵、彫



刻、ステンドグラス、絵手紙の計二十五点を出展する。院長の中村友昭さん(五七)が仲介し、昨年に画廊で開いたのに続き二回目。初参加の杉浦さんは白内障を経験したが、十一月に百歳を迎える今も裸眼で絵手紙を描く。野菜や果物などを柔らかいタッチで表現し、患者の間で「優しく、かわいらしい」と注目を集める。人が外部から得る情報の多くが視覚とされる中、そ

作品を展示する(左上から時計回りに)杉本さん、牧野さん、杉浦さん、水谷さん

異なる作風楽しんで 西尾の夫妻が陶芸展 ノリタケの森ギャラリー

夫婦それぞれに作陶に取り組み西尾市室町下屋敷の堀井隆さん(五五)、倫子さん(四七)による陶芸展が十三日、西区則武新町のノリタケの森ギャラリーで始まった。十八日まで。

隆さんは、「青風流々」と題した力強い印象のオブジェを中心に約三十点を出品。荒々しい表情の白い土の表面に、目に鮮やかなタールコイズブルーの釉薬が勢



いよく流れる。縁に銀彩を施した丸皿、三角皿なども並べた。 倫子さんは、「摘果」と

れを失う不安を経験した五人。「医療現場で展示することに意味がある」と話す通り、過去の自分に近い患者らに、安らぎの時間や前向きになる力を与えたいと

の思いで作品を並べる。 十二月十六日(日曜以外)まで展示。一般公開は十月十七日午前十時～午後五時、十一月二十一日午後二～五時。

## 有松の魅力を見直し

名短大生が聞き取り調査



江戸時代末期の建築が残る元校舎の「岡家住宅」で、加藤さん(左)から有松絞の説明を聞く学生たち＝緑区で

名古屋短期大(豊明市)現代教養学科の一年生約六十人は、恒例行事「秋のセミナー」として、日本遺産にも認定されている伝統工芸「有松絞」が伝わる緑区の有松地区で、有松絞やまちづくりに関わる関係者らに聞き取り調査を行っている。

同セミナーでは毎年、長野県で高齢者の家に宿泊し、交流を深めているが、今年は新型コロナウイルスの影響で中止となった。そのため、キャンパスから徒歩圏内にありながら、学生たちがあまり訪れる機会がなかった有松の魅力を見直し、調査の場を選